

小笠原諸島からの注目すべき昆虫類の記録

苅部治紀¹、松本浩一²、岸本年郎³、尾園暁²

Records of notable insect species from the Ogasawara Islands

Haruki Karube¹, Kouichi Matsumoto², Toshio Kishimoto³, Akira Ozono²
paruki@nh.kanagawa-museum.jp

¹神奈川県立生命の星・地球博物館（〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499）

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, 499 Iryuda, Odawara, Kanagawa
250-0031, Japan

²小笠原固有昆虫保全研究会

Society for Conservation of Native Insects in Ogasawara

³.(財)自然環境研究センター

Japan Wildlife Research Center

要 旨

小笠原諸島のコウチュウ目、カメムシ目、ハエ目昆虫に関する近年の記録を、主に環境省及び東京都のレッドリストに掲載されている固有種を中心に報告した。オサムシ科4種、クワガタムシ科1種、タマムシ科5種1亜種、ハナノミ科4種、カミキリモドキ科1種、カミキリムシ科9種2亜種、ヒゲナガゾウムシ科8種、キジラミ上科1種、ヨコバイ上科5種、ウンカ上科6種、ミズギワカメムシ科1種、ムシヒキアブ科2種、ハナアブ科4種について、生態的な知見や保全上のコメントを加えて記録した。

キーワード

外来種、固有種、昆虫相、分布記録、レッドリスト

Summary

Collecting or observation data in recent years about insects species, mainly endemic or endangered one, inhabited in the Ogasawara Islands are reported. The report includes following taxa: Coleoptera (Carabidae, Lucanidae, Buprestidae, Mordellidae, Oedemeridae, Cerambycidae, Anthribidae), Hemiptera (Psylloidea, Cicadelloidea, Fulgoroidea), Diptera (Asilidae, Syrphidae), with ecological notes and comments for conservation.

Key words

Alien species, Distribution record, Native species, Insect fauna, Red list

小笠原諸島からの昆虫相については、大林ほか (2004) は、加藤 (1991) の昆虫目録を追加修正し 1,281 種を記録している。それらに加え、信頼のおけるアセスメントの記録や標本に基づく未記録種、未記載種を加えると、現在 1,418 種 (亜種を含む) を数えている (岸本, 未発表)。近年になってからも新たな新発見による追加記録もあり、とくに近年の属島調査の進展によって、顕著な新属や新種の発見や島未記録種の発見が相次いでいるところである (Ishikawa, 2011; Hasegawa et. al., 2011 など)。小笠原の昆虫相は種数こそ多くないものの、固有種の割合が高く、分類学上や生物地理学上注目すべき種が多いが、近年は衰亡が目立つ種も多い。小笠原の昆虫の衰亡要因としては、開発、乱獲の他に、外来種による影響が大きいのが特徴である。昆虫類が受ける影響としては、グリーンアノールやオオヒキガエルの捕食、アカギヤトクサバモクマオウ等の外来樹種の繁茂による影響などが著しい。2007 年 8 月に公表された環境省による最新のレッドリストでは、566 種 (亜種・地域個体群を含む) の昆虫が掲載されているが、そのうちの約 1 割以上に当たる 60 種が小笠原産の昆虫である。小笠原諸島の面積は日本全土の 0.03% 程度を占めるに過ぎないことを考えると、小笠原産昆虫のレッドリスト掲載種の数がいかに多いかが理解されよう。なお、東京都も 2011 年にレッドリストの改訂を公表したが、この中には 275 種の小笠原諸島産の昆虫が掲載されている。小笠原の自然環境の保全上は、どのような種が絶滅の危機にあるのかを把握しておく必要があるが、そのためには生息状況の把握が欠かせないものの、昆虫については調査・報告が少ないのが現状である。

ここでは、環境省及び東京都レッドリスト掲載種を中心に、荻部ほか (2004) で記録した以降に確認された小笠原諸島における注目すべき昆虫について報告する。今回は、コウチュウ目、カメムシ目、ハエ目の中から代表的な種を取りあげた。

なお、聳島列島の昆虫についても新知見が多いが、これらは別途報告予定であるため、今回の報告からは省いた。

コウチュウ目

オサムシ科

ハハジマモリヒラタゴミムシ *Colpodes yamaguchii* Kasahara, 1991

小笠原固有種 環境省 RL: CR+EN 東京都 RL: NT

弟島: 2exs., 一ノ谷, 17. V. 2005, 荻部治紀採集; 3exs., 一ノ谷, 16. IX. 2005, 荻部治紀採集; 1ex., 天海山麓沢, 26.III. 2006, 荻部治紀採集; 2exs., 天海山麓沢, 13. V. 2007, 荻部治紀採集.

兄島: 1ex., 万作浜, 7. VI. 2004, 荻部治紀採集; 3exs., 兄島万作浜, 3. X. 2004, 荻部治紀採集; 2exs., 滝之浦, 20. II. 2006, 初芝伸吾採集; 3exs., 万作浜, 18. II. 2007, 荻部治紀採集; 2exs., 万作浜, 14. V. 2005, 荻部治紀採集; 4ex., 北東部, 16-21. II. 2007, 初芝伸吾・佐藤陽路樹採集.

母島: 5exs., 長浜, 15. V. 2007, 荻部治紀採集; 1ex., 石門, 16. X. 2009, 荻部治紀採集; 1ex. 堺ヶ岳, 11. X. 2008, 荻部治紀採集.

本種は、母島産の標本をもとに記載された種類であるが、生息環境などが不明だったこともあり、原記載以降の記録はごく少なく、母島では侵略的外来種であるオオヒキガエルの蔓延もあり、現状が危惧されていた。ところが、属島での調査の進展にとともに、本種が再確認されその生息環境が明らかになってきた。最初に本種が再発見されたのは、2004年の兄島であり沢沿い水際の石下や落葉堆積物下などから確認され、その後の調査で弟島でもやはり同様の環境で確認された。弟島では詳細な調査を実施したところ、沢沿いの斜面の滲出水がみられるような湿潤な環境下では、シーズンを通して確認されたことから、こうした環境が本来の生息環境ではないかと考えられる。

その後の調査で、母島でも同様な環境から確認されたが、父島ではこれまでのところ発見できていない。

オガサワラアオゴミムシ *Chlaenius ikedai* Kasahara, 1991

小笠原固有種 環境省 RL: CR+EN 東京都 RL: CR

弟島: 1ex., 天海山麓沢, 3. III. 2009, 福富宏和採集; 1ex., 黒浜上部 (ライト・トラップ), 10. VII. 2011, 苺部治紀採集.

兄島: 1ex., 台地(ライト・トラップ), 2. VII. 2007, 苺部治紀採集.

西島: 2exs., 13. X. 2011, 苺部治紀採集.

巽島: 1ex., 24. VI. 2010, 森英章目撃.

母島: 1ex., 南崎, 15. VII. 2011, 森英章採集.

向島: 2exs., コペペ海岸上部 (ライト・トラップ), 12. VII. 2010, 苺部治紀・松本浩一・尾園暁採集.

本種も母島を原産地とするが、その後の記録は数例しかなく (苺部, 1998) 絶滅が心配される状況にあった。本種も 2007 年に兄島の設置式ライトトラップで採集されたのを皮きりに、弟島、西島、巽島、母島、向島で現存が確認された。これまでの確認例は、放置型ライトトラップ (弟島、向島) のほか、沢沿いの落葉下 (弟島、西島) などである。母島では、沖村周辺ではその後確認されていないが、南崎で捕獲されたオオヒキガエル胃内容物から本種が確認され、母島にも残存しているもののオオヒキガエルの脅威が及んでいることが分かっている (岸本, 2009)。本種を含め地表活動性のゴミムシ類の減少には、オオヒキガエルの捕食圧が多大な影響を与えている可能性は指摘されてきたが、実際に胃内容物から確認されたことは、オオヒキガエルの駆除や地域排除が本種を含めた地表性昆虫類の保全に重要なことを実証していよう。これまでに父島からの確認記録はない。

オオヒラタアトキリゴミムシ *Parena laesipennis* (Bates, 1873)

父島: 1ex., 旭山, 15. IV. 2008, 岸本 年郎採集; 1ex., VERA 裏 (ライト・トラップ), 8. VII. 2010, 苺部治紀・松本浩一・尾園暁採集.

ほぼ日本全土に分布するが、小笠原諸島からはこれまで記録がなかった。主に樹上で生活し、夜行性と考えられる。本種のような比較的目立つ種がこれまで発見されてこなかったとは考えがたく、また、樹皮下で越冬することから近年になって植栽木について運ばれた外来種の可能性が高い。

イクビホソアトキリゴミムシ *Dromius quadraticollis* Morawitz, 1862

兄島: 1ex., 瘤山 (サンケイ・トラップ), 6. X. 2011, 荇部治紀・尾園暁採集.

近年の父島での記録もある。兄島からの初記録となる。

クワガタムシ科

オガサワラネブトクワガタ父島亜種

Aegus ogasawarensis ogasawarensis Okajima et Kobayashi, 1975 東京都 RL: NT

父島: 3♂3♀, 夜明山, 5. II. 2005, 荇部治紀採集.

弟島: 3♂3♀, 黒浜上部 (飼育羽化), 4. X. 2008 幼虫採集, 荇部治紀採集.

父島、弟島ともリュウキュウマツ倒木下から得た。いずれも島内では湿度の高い樹林環境であった。弟島では 2004 年の調査で、野生化したノブタの糞分析の結果、本種やオガサワラチビクワガタ *Figulus boninensis* の固有クワガタムシが幼虫、成虫ともに捕食されていることが明らかになっていたが、ノブタは環境省の事業による駆除により根絶が達成されており、脅威の一つが取り除かれたといえるだろう。

タマムシ科

オガサワラムツボシタマムシ名義タイプ亜種 *Chrysobothris boninensis boninensis*

Y.Kurosawa, 1980 小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: VU

弟島: 1ex., 広根山 (サンケイ・トラップ), 10. VII. 2011, 荇部治紀・須田真一・尾園暁採集.

兄島: 5exs., 台地 (マレーズ・トラップ), 18. VIII. 2010, 荇部治紀・松本浩一・尾園暁採集.

オガサワラムツボシタマムシ母島列島亜種 *Chrysobothris boninensis suzukii* Y.

Kurosawa, 1980 小笠原固有種 環境省 RL: CR+EN 東京都 RL: VU

向島: 2exs., (マレーズ・トラップ), 27. VII. 2011, 荇部治紀・須田真一・尾園暁採集.

妹島: 5exs., 23. VI. 2006, 荇部治紀採集.

姪島: 1ex., 材採取 (飼育羽化 VI. 2007), 22. VI. 2006, 荇部治紀採集.

幼虫はシマシャリンバイを加害し、成虫も同種の新しい枯死木で見られる例が多い。繰り返しの調査にもかかわらず父島・母島では近年の記録を見ず、絶滅した可能性が高い。近年の調査によって、兄島、弟島や母島属島での記録が追加されているが、ほぼすべての地域で外来樹であるモクマオウ、リュウキュウマツの侵入が顕著になってきており、在来樹林の保全が急務となっている。

ツヤヒメマルタマムシ *Kurosawaia yanoi* (Y. Kurosawa, 1963)

小笠原固有種 環境省 RL: NT 東京都 RL: VU

兄島: 5exs., 台地 (マレーズ・トラップ), 18. VIII. 2010, 荇部治紀・松本浩一・尾園暁採集; 10exs., 台地 (マレーズ・トラップ), 14. IX. 2009, 荇部治紀・松本浩一・尾園暁採集.

弟島: 3exs., 鹿浜～広根山間, 18. VI. 2006, 荇部治紀採集; 3exs., 鹿ノ浜, 16. IX. 2005,

苧部治紀採集.

向島: 1ex., 向島産の材より羽化, V-VII, 2005, 苧部治紀採集.

妹島: 1ex., 妹島, 22. VI. 2006, 苧部治紀採集.

本種もアノールの捕食圧の影響を強く受けているものと考えられており、近年の父島、母島の記録を欠く。幼虫はシャリンバイを加害し、成虫はヒメフトモモの葉に集まる。

属島では通常時は個体数も多い種類だが、2004年、2011年の干ばつ時には、個体数が激減した。2004年の干ばつの影響は大きく、回復は遅々としていた。

ツマベニタマムシ名義タイプ亜種 *Tamamushia virida virida* Miwa et Chujo, 1935

小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: VU

弟島: 1ex., 広根山, 18. III. 2007, 苧部治紀採集; 2exs., 広根山, 12. VII. 2008, 苧部治紀採集; 1ex., 黒浜, 16. IX. 2005, 苧部治紀採集.

兄島: 1ex., 万作浜～台地, 12. IX. 2005, 苧部治紀採集; 2exs., 滝之浦～台地, 14. IX, 2005, 苧部治紀採集.

向島: 1ex., (マレーズ・トラップ), 26. VII. 2011, 苧部治紀・須田真一・尾園暁採集.

本種もアノールの捕食圧の影響を強く受けているものと考えられており、近年の父島・母島の記録を欠く。前種同様に幼虫はシャリンバイを加害し、成虫はヒメフトモモの葉に集まる。本種も干ばつの影響を強く受けて激減した。

オガサワラナガタマムシ *Agrilus boninensis* Y. Kurosawa, 1963

小笠原固有種 環境省 RL: DD 東京都 RL: VU

弟島: 9exs., 鹿ノ浜, 25. VI. 2005, 苧部治紀採集; 2exs., 広根山, 13. IX. 2005, 苧部治紀採集; 2exs., 鹿ノ浜～広根山間, 12. VI. 2006, 苧部治紀採集; 4exs., 広根山, 15. VI. 2007, 苧部治紀採集.

成虫は、ムニンエノキの葉に集まる。苧部ほか(2004)では、記録がごく少なかったが、発生時期のスイーピングによって確実に得られるようになってきた。ただし、本種が集まるようなムニンエノキの大木は数も多いものではなく、近年これら大木の枯死が相次いでいることも懸念材料となっている。なお、父島・母島では同様の調査でも確認されず、絶滅が心配されている。

シラフオガサワラナガタマムシ *Agrilus suzukii* Y. Kurosawa, 1985

小笠原固有種 環境省 RL: DD 東京都 RL: VU

弟島: 1ex., 鹿ノ浜～広根山間, 12. VI. 2006, 苧部治紀採集; 1ex., 広根山 15. VI. 2007, 苧部治紀採集; 2exs., 広根山, 15. VI. 2009, 苧部治紀採集; 1ex., 広根山 (ライト・トラップ), 8. VII. 2010, 苧部治紀採集.

兄島: 1ex., 台地, 14. IX. 2009, 苧部治紀採集; 1ex., 台地, 5-6. VII. 2010, 苧部治紀採集.

向島: 1ex., コペペ海岸上部, 9. X. 2008, 苧部治紀採集.

妹島: 11exs., 22. VI. 2006, 苧部治紀採集.

センダンの葉に集まることが確認された。これまで記録のある島は少なかったが、ホストが判明してからの調査で、属島には健在であることが確認された。なお、父島・

母島では同様の調査でも確認されず、絶滅が心配されている。

ハナノミ科

オガサワラキボシハナノミ *Hoshihananomia trichopalpis* Nomura, 1975

小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: VU

兄島: 7exs., 台地 (マレーズ・トラップ), 18. VIII. 2000, 苅部治紀・松本浩一・尾園暁採集; 1ex., 台地 (サンケイ・トラップ), VIII. 2010, 苅部治紀・松本浩一・尾園暁採集. このほか多数

キムネキボシハナノミ *Hoshihananomia ochrothorax* Nomura, 1975

小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: VU

兄島: 8exs., 台地 (マレーズ・トラップ), 18. VIII. 2010, 苅部治紀・松本浩一・尾園暁採集. このほか多数

苅部ほか (2004) では、わずかな記録しかなかったが、近年のマレーズ・トラップ調査によって属島では個体数も多く得られるようになってきた。かつて産したという父島・母島では、同様のトラップ調査でもこれらの大型ハナノミは捕獲されず、絶滅かそれに近い状況にあるものと思われる。

クスイキボシハナノミ *Hoshihananomia kusuii* Nomura, 1975

小笠原固有種 環境省 RL: CR+EN 東京都 RL: CR

兄島: 1ex, 台地, 18. VIII. 2010, 苅部治紀・松本浩一・尾園暁採集.

父島・母島から記録されている種であるが (高桑, 1985)、少なくとも 1990 年代以降の記録がなく、絶滅が危惧されていたものである。本種を含め、大型ハナノミ類は現存が明らかになった兄島などでも一般採集で確認されることはほとんどなく、昆虫相調査におけるマレーズ・トラップの有効性を証明しよう。

オガサワラモンハナノミ *Tomoxia relict* Takakuwa, 1985

小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: CR

弟島: 1ex, 広根山 (マレーズ・トラップ), 27. VIII. 2010, 苅部治紀・松本浩一・尾園暁採集; 1ex., 広根山 (マレーズ・トラップ), 21. X. 2011, 苅部治紀・尾園暁採集.

兄島: 1ex, ニセ二子山 (マレーズ・トラップ), VIII. 2010, 苅部治紀・松本浩一・尾園暁採集; 1ex., 台地 (マレーズ・トラップ), 21. X. 2011, 苅部治紀・尾園暁採集.

母島: 1ex., 石門 (マレーズ・トラップ), XII. 2011, 苅部治紀・尾園暁採集.

本種は、母島産の個体をもとに記載された種類で、長年追加記録がなく絶滅が心配されていたが、Sugiura et. al. (2009) によって兄島におけるマレーズ・トラップで再確認された。その後、苅部が弟島広根山の樹林のスイーピングで採集した個体が報告されている (Takakuwa, 2010)。その後の調査で、兄島、弟島の追加記録が得られたほか、母島でも確認された。とくに母島の記録は原記載以来のものである。

カミキリモドキ科

マツムラカミキリモドキ *Eobia matsumurai* Kono, 1937

小笠原固有種 東京都 RL: DD

向島: 12exs., (サンケイ・トラップ), 26. VII. 2011, 荻部治紀・須田真一・尾園暁採集.

同属のオガサワラハイイロカミキリモドキが多産するのと異なり、本種は記録が少ない。

カミキリムシ科

オガサワラコバネカミキリ名義タイプ亜種 *Psephactus scabripennis scabripennis* Kusama, 1973 小笠原固有種 東京都 RL: NT

母島: 5exs., 桑の木山産の材より羽化, 2005, 荻部治紀採集; 1ex., 堺ヶ岳(マレーズ・トラップ), 25. VII. 2010, 採集.

オガサワラコバネカミキリ父島亜種 *Psephactus scabripennis chichijimensis* Kusama, 1973 小笠原固有種 東京都 RL: NT

父島: 4exs., 16. VI. 2009. 東平旧道, 荻部治紀採集; 2exs., 夜明山天文台 (マレーズ・トラップ), 30. VIII. 2010, 荻部治紀・松本浩一・尾園暁採集.

本種は、湿性高木林に生息し、幼虫はおもにホルトノキやモクダチバナなどの立ち枯れや倒木を加害する。これまでの記録は父島と母島に限られている。母島では現在でも桑ノ木山や堺ヶ岳から石門周辺などで確認されているが、近年の父島での記録はごく少ない(楨原・杉浦, 2006)。父島ではグリーンアノールの捕食圧によると考えられる昼行性昆虫の激減が継続しており、10年ほど前までは比較的広く確認されていたオガサワラビロウの枯れ枝を加害し、その枯葉に潜んでいたオガサワラゴマフカミキリも激減している。本種は父島内で湿性環境が比較的良好に保たれている中央山周辺のマレーズ・トラップで確認され、夜明山周辺までの地域で、現在でも少ないながら現存することが明らかになった。父島の湿性林でも近年アカギの侵入が目立ってきており、もともと湿性林の面積が小さいだけに在来樹木の保全は重要である。

フタモンアメイロカミキリ名義タイプ亜種 *Pseudiphra bicolor bicolor* Nara et Kusui, 1974 小笠原固有種 環境省 RL: CR+EN 東京都 RL: VU

弟島: 1ex., 広根山南方, 15. VI. 2007, 荻部治紀採集; 1ex., 広根山南方, 1. VII. 2007, 荻部治紀採集.

兄島: 1ex., 台地 (マレーズ・トラップ), 11. X. 2011, 荻部治紀・尾園暁採集.

フタモンアメイロカミキリ母島亜種 *Pseudiphra bicolor nigripennis* Takakuwa, 1984 小笠原固有種 環境省 RL: CR+EN 東京都 RL: EN

母島: 1ex., 母島堺ヶ岳～石門 (アノール・トラップ粘着板より回収), 18. VII. 2008, 荻部治紀採集.

向島: 1ex., (マレーズ・トラップ), 26. VII. 2011, 荻部治紀・須田真一・尾園暁採集.

小型のカミキリで、父島列島のものと、母島列島のものでは色彩が異なることから亜種に分けられている。父島では1990年代半ば以降の記録がなく絶滅が心配されていたが、2006年にコーヒー山でマレーズ・トラップによって再確認された(楨原・杉浦, 2006)。筆者らの調査では、弟島北部の在来林で開花したオオバシマムラサキに飛

来した個体が確認されたほか、兄島、向島ではマレーズ・トラップで捕獲された。いずれも個体数は少ないが得られた地域は良好な在来林が残存している地域であった。母島ではアノール捕獲用の粘着トラップに付着している個体が確認された。本種は昼行性かつ訪花性を持つ種であり、アノールの捕食圧の影響を受けていると思われるが、同様の生態を持つ他種と異なり、父島、母島とも生存が確認されていることは興味深い。楨原ほか (2004) は、本種が有毒のオガサワラハイロカミキリモドキに擬態していることが、生存を助けている可能性に言及している。

オガサワラオオシロカミキリ *Olenecamptus fukutomii* Hasegawa, 2004

小笠原固有種 東京都 RL: DD

兄島: 5exs.羽化, 台地, 7. V. 2008, 苅部治紀採集.

本種は、兄島から持ち帰った枯れ木から羽化脱出した1メスをもとに記載されたもので、その後の記録はなかった。最近の調査で兄島の乾性低木林で再発見された。ホストはシマイスノキでその新しい枯死木からのみ得られた。本種の加害木はまれでまた野外での生態は依然不明のままである。樹種そのものは乾性低木林では普通種であるが、モクマオウなどの侵入が顕著になってきており、在来林の保全が急務である。

オガサワラトビイロカミキリ *Allotraeus boninensis* (Gressitt, 1937)

小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: VU

弟島: 3exs., 広根山南方 (コヤブニッケイ材より羽化), X. 2007 採取, V. 2008 羽化, 苅部治紀採集; 1ex., 広根山 (ライト・トラップ), 7. VII. 2010, 苅部治紀採集.

兄島: 1ex., 台地 (ライト・トラップ), 20. V. 2007, 苅部治紀採集.

本種は、コヤブニッケイを加害するが、小径木には入らない。一般に沢沿いの湿潤な環境で見ることが多い。これまで記録があるのは、弟島、兄島、父島、母島の諸島でも大きな島に限定されている。本種は夜行性の種であり、調査が十分でない面もあると思われるが、近年の父島・母島の記録を欠く。

オガサワラムネスジウスバカミキリ *Nortia kusuii* Kusama et Nara, 1974

小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: VU

母島: 5exs., 桑ノ木山産モクタチバナ材より羽化, III. 2005, 苅部治紀採集; 4exs., 堺ヶ岳産モクタチバナ材より羽化, V. 2005, 苅部治紀採集; 1ex., 17. VI. 2008, 堺ヶ岳 (ライト・トラップ), 苅部治紀採集.

本種は、湿性林に生息する夜行性の種であり、父島・母島のみから記録されている。モクタチバナの立ち枯れを加害することが確認されている。母島ではアカギの侵入が顕著な地域が増加しているが、在来林が残存している個所では健在であることが確認された。

オガサワライカリモントラカミキリ *Xylotrechus ogasawarensis* Matsushita, 1931

小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: NT

母島: 1ex., 母島堺ヶ岳～石門 (アノール・トラップ粘着板より回収), 18. VII. 2008, 苅部治紀採集.

近年の記録は属島のみになっており、父島・母島ではすでに絶滅した可能性が高い

と考えられていた。母島ではアノール捕獲用の粘着トラップに付着している個体が確認されたほか、オオバシマムラサキの花に飛来した個体が確認され、現存していることが明らかになったが、その個体数はきわめて少ない。

オガサワラチャイロカミキリ *Comusia testacea* (Gressitt, 1937)

兄島: 9exs., 万作浜産材より羽化, V-VII. 2005, 苅部治紀採集; 1ex., 台地(マレーズ・トラップ), 14. IX. 2010, 苅部治紀・松本浩一・尾園暁採集。

弟島: 2exs., 広根山産材より羽化, III-VI, 2009, 苅部治紀採集。

母島: 2exs., 母島堺ヶ岳～石門 (アノール・トラップ粘着板より回収), 18. VII. 2008, 苅部治紀採集。

野外では、希にビーティングで得られる程度で、採集が困難な種である。

ケハラゴマフカミキリ *Mesosa hirtiventris* (Gressitt, 1937)

小笠原固有種 環境省 RL: NT 東京都 RL: VU

弟島: 1ex., 鹿ノ浜ムニンエノキ材より羽化, V. 2004, 苅部治紀採集。

兄島: 1ex., 台地(マレーズ・トラップ), 21. X. 2011, 苅部治紀・尾園暁採集。

ウラジロエノキのほか、ソウシジュやギンネムなどの外来樹を加害する。とくに弟島ではソウシジュに多数の脱出口が見られる。父島・母島では最近の記録を知らない。

オガサワラビロウドカミキリ *Acalolepta boninensis* Hayashi, 1971

小笠原固有種 環境省 RL: NT 東京都 RL: NT

兄島: 1ex., 台地, 20. V. 2007 (ライト・トラップ), 苅部治紀採集。

本種は、湿性林に生息する種として知られ、ホストとしては、ムニンヤツデが著名であるが、他の樹種からの記録もある。これまで父島・母島・妹島からの記録しかなかったが、今回乾性林の発達した兄島で確認されたことは興味深い。採集地は、台地上の谷地形の場所である。

ヒゲナガゾウムシ科

アカマダラヒゲナガゾウムシ小笠原亜種 *Litocerus tokarensis ogasawaranus* Shibata, 1980 小笠原固有亜種 東京都 RL: DD

母島: 2exs., 石門, 18. VI. 2007, 苅部治紀採集。

湿性林に生息する種と思われ、シマホルトノキ枯死部の菌類に集まっていた。

オオカオジロヒゲナガゾウムシ *Cedus insignis* Shibata, 1980

小笠原固有種 東京都 RL: DD

弟島: 1ex., 黒浜上部, 28. IX. 2008, 苅部治紀採集。

母島: 1ex., 桑ノ木山産モクタチバナ材より羽化, III. 2005, 苅部治紀採集。

弟島の個体は、モクタチバナ枯死木に静止していたもので、母島の羽化例から見ても、モクタチバナがホストと考えられる。

オガサワラオノヒゲナガゾウムシ *Dendropemon ohkurai* (Shibata, 1978)

小笠原固有種

兄島: 2exs., 台地, 20. V. 2007, 苅部治紀採集; 1ex., 台地 (サンケイ・トラップ), 6. X.

2011, 苜部治紀・尾園暁採集.

母島: 1ex., 堺ヶ岳手前 (ライト・トラップ), 9. VI. 2006, 苜部治紀採集; 1ex., 堺ヶ岳手前(ライト・トラップ), 24. VI. 2006, 苜部治紀採集; 2exs., 桑の木山(ライト T), 20. V. 2007, 苜部治紀採集.

向島: 2exs., (マレーズ・トラップ), 26. VII. 2011, 苜部治紀・須田真一・尾園暁採集; 2exs., 北部 (マレーズ・トラップ), XII. 2011, 苜部治紀・須田真一・尾園暁採集; 1ex. 南部 (サンケイ・トラップ), XII. 2011, 苜部治紀・須田真一・尾園暁採集.

オガサワラフトヒゲナガゾウムシ *Basitropis seinoi* Morimoto, 1978

小笠原固有種

弟島: 1ex., 広根山, 1. VI. 2007, 苜部治紀採集; 6exs., 広根山 (マレーズ・トラップ), 27. VIII. 2010, 苜部治紀・松本浩一・尾園暁採集.

兄島: 1ex., 見返山, 30. VI. 2006, 苜部治紀採集; 2exs., 乾沢 (オガサワラビロウ倒木より), 19. X. 2009, 苜部治紀採集; 6exs., 台地, 18. VIII. 2010, 苜部治紀・松本浩一・尾園暁採集; 2exs., 台地, 30. XI. 2010, 苜部治紀・松本浩一・尾園暁採集.

父島: 1ex., 30. VIII. 2010, 夜明山天文台 (マレーズ・トラップ), 苜部治紀・松本浩一・尾園暁採集.

母島: 2exs., 石門, 18. VI. 2007, 苜部治紀採集.

向島: 2exs., (マレーズ・トラップ), 26. VII. 2011, 苜部治紀・須田真一・尾園暁採集.

両種ともビーティングでまれに得られる程度であったが、マレーズ・トラップ調査によって効率よく採集できるようになってきた。夜行性と考えられ父島でもわずかに記録された。

ギンボシメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia annulipes* Morimoto, 1981

小笠原固有種 東京都 RL: DD

弟島: 1ex., 広根山, 15. VI. 2009, 苜部治紀採集.

チビメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia minor* Shibata, 1980

小笠原固有種 東京都 RL: DD

弟島: 1ex., 広根山, 15. VI. 2009, 苜部治紀採集.

オガサワラコブヒゲナガゾウムシ *Gibber ogasawarensis* Morimoto, 1981

小笠原固有種 東京都 RL: DD

弟島: 1ex., 広根山, 15. VI. 2009, 苜部治紀採集.

母島: 1ex., 石門 (マレーズ・トラップ), XII. 2011, 苜部治紀・尾園暁採集.

上記3種とも広葉樹ビーティングで得られた。

オガサワラクチボソゲナガゾウムシ *Plintheria caliginosa* Shibata, 1980

小笠原固有種 東京都 RL: DD

兄島: 1ex., 瘤山, 21. X. 2011, 苜部治紀・尾園暁採集.

マレーズ・トラップで得られた。

カメムシ目

キジラミ上科

チャマダラキジラミ *Cacopsylla maculipennis* Inoue et Miyatake, 2001

小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: NT

父島: 4exs., 巽谷, 3. III. 2007, 寄主: シロトベラ, 松本浩一採集.

母島: 10exs., 南崎, 4. IV. 2009, 寄主: ハハジマトベラ, 松本浩一採集.

母島および火山列島北硫黄島から記録され、シロトベラを寄主とする。最近、父島からも発見され、また母島においてハハジマトベラ (トベラ科) も寄主とすることが判明した。

ヨコバイ上科

ツノゼミ科

オガサワラマルツノゼミ *Gargara* sp. ?

兄島: 2 成虫 1 幼虫, 滝の浦一台地, 寄主: ムニンアオガンピ^o, 19. III. 2010, 松本浩一採集.

小笠原諸島に広く分布し、寄主植物はムニンエノキ (エノキ科) が知られているが、兄島滝の浦から台地に至る途中でムニンアオガンピ^o (ジンチョウゲ科) より成虫とともに幼虫を採集した。

アワフキムシ科

***Aphrophora bizonalis* Matsumura, 1907**

小笠原固有種 東京都 RL: NT

兄島: 幼虫数個体, 滝の浦, 27. X. 2010, 寄主: タコノキ, 松本浩一観察.

父島、母島から記載されたが、その生態は判明していなかった。しかし兄島での観察でタコノキ (タコノキ科) の葉鞘部に幼虫の分泌物で作った泡の巣と羽化殻を確認した。

ヨコバイ科

オガサワラオモナガヨコバイ *Lodiana boninensis* (Matsumura, 1914)

小笠原固有種

母島: 3 成虫 2 幼虫, 乳房山 50-67m alt., 22. II. 2008, 寄主: コヤブニッケイ, 松本浩一採集; 1 成虫, 1 幼虫, 乳房山 350m alt., 13. VI. 2010, 寄主: ムニンイヌグス, 松本浩一採集.

父島: 3 成虫 1 幼虫, 旭山, 25. III. 2008, 寄主: コブガシ, 松本浩一採集.

兄島: 1 成虫 1 幼虫, 滝の浦一台地, 26. III. 2008, 寄主: ムニンイヌグス, 松本浩一採集.

寄主植物は記録がなかったが、兄島、父島、母島のムニンイヌグス、コブガシ、コヤブニッケイ (クスノキ科) から成虫、幼虫が確認された。母島乳房山での 2010 年の観察では、成虫と幼虫が同じムニンイヌグスの若枝に見られ、さらに幼虫の腹端から

排出された甘露にオガサワラオオアリが集合していた。

***Waigara boninensis* (Matsumura, 1914) 小笠原固有種**

父島: 2exs., 巽谷, 11. IX. 2010, 松本浩一採集.

兄島: 2 幼虫, 台地一滝の浦の沢, 24. II. 2009, 寄主: ムニンイヌグス, 松本浩一採集.

弟島: 2exs., 鹿ノ浜一広根山, 1. XI. 2006, 寄主: シマホルトノキ, 松本浩一採集.

従来の記録では *Bhatia boninensis* とされていた種。「小笠原島」から記載され母島から記録があるが、兄島、弟島、父島のムニンイヌグス (クスノキ科)、シマホルトノキ (ホルトノキ科) から採集された。

オガサワラズキンヨコバイ *Batrachomorphus ogasawarensis* (Matsumura, 1912) 小笠原固有種

兄島: 2exs., 乾谷, 21. II. 2010, 寄主: ヒメフトモモ, 松本浩一採集.

母島: 1 成虫, 乳房山, 150m alt., 14. V. 2008, 寄主: ヒメフトモモ, 松本浩一採集.

弟島、母島から記録があるが、兄島からも採集された。また、生態などは判明していなかったが、兄島と母島でヒメフトモモ (フトモモ科) から採集された。

ウンカ上科

グンバイウンカ科

***Kallitaxila boninensis* (Matsumura, 1914) 小笠原固有種**

母島: 1ex., 乳房山, 13. VI. 2010, 寄主: ヒメツバキ, 松本浩一採集.

父島、母島から記録があり各種広葉樹に見られるが、ヒメツバキ (ツバキ科) からも見出された。

***Mesepora ogasawarana* Matsumura, 1914 小笠原固有種**

母島: 3exs., 南崎, 4. IV. 2009, 寄主: ハハジマトベラ, 松本浩一採集; 2exs., 南崎, 4. III. 2009, 寄主: シマシャリンバイ, 松本浩一採集.

弟島、兄島、父島、母島から記録があるものの寄主植物の報告は無かったが、母島からシマシャリンバイ (バラ科) とハハジマトベラ (トベラ科) から採集された。

***Mesepora issiformis* Matsumura, 1914 小笠原固有種 東京都 RL: NT**

南島: 多数目撃, 中央ドリーネ, 15. VI. 2010, 寄主: コハマジンチョウ, クサトベラ, 松本浩一確認.

父島、兄島、人丸島、南島、母島から記録があるが、詳しい生態等は不明であった。しかし南島においてコハマジンチョウ・クサトベラから採集され、海岸植生に多く生息することが判明した。

***Mesepora boninensis* Matsumura, 1914 小笠原固有種**

兄島: 3exs., 乾谷一菅笠山, 21. II. 2010, 寄主: シマイスノキ, 松本浩一採集.

寄主植物の報告は無かったが、シマイスノキ (イスノキ科) より採集され、乾性低木林に個体数が多いことが判明した。

アオバハゴロモ科

トビイロハゴロモ *Mimophantia maritime* Matsumura, 1900

母島: 多数, 南崎, 17. X. 2007, 寄主: オガサワラススキ, 松本浩一採集.

兄島、父島から記録があるが、母島の南崎においてオガサワラススキ (イネ科) の根元付近に多数の幼虫とともに発見された。

ハゴロモ科

Orosanga triton Fennah, 1971 小笠原固有種 東京都 RL: NT

兄島: 1ex., 台地, 11. II. 2009, 寄主: シマイスノキ, 松本浩一採集.

父島、母島から記載されて以後報告がなかったが、兄島から初めて採集された。乾性低木林に生息しシマイスノキ (イスノキ科) につくことが判明した。

ミズギワカメムシ科

オガサワラミズギワカメムシ *Micracanthia boninana* (Drake, 1961)

小笠原固有種 環境省 RL: VU 東京都 RL: VU

母島: 6exs., 北港, 4. III. 2009, 初芝伸吾・福富宏和採集.

水がしたたり流れる岩崖の表面をすばやく走り回るのが確認されている。

ハエ目

ムシヒキアブ科

オガサワライシアブ *Laphria ogasawarensis* Matsumura, 1916

小笠原固有種 東京都 RL: DD

兄島: 2exs., 台地, 2010, 苧部治紀・松本浩一・尾園暁採集; 1ex., 台地, 30. IX. 2010, 苧部治紀・松本浩一・尾園暁採集; 3exs., 台地, 18. VIII. 2010, 苧部治紀・松本浩一・尾園暁採集; 1ex., 台地 (マレーズ・トラップ), VII. 2010, 苧部治紀・松本浩一・尾園暁採集; 2exs., 台地 (マレーズ・トラップ), 21. X. 2011, 苧部治紀・尾園暁採集.

弟島: 1ex., 鹿ノ浜, 13. IX. 2005, 苧部治紀採集.

母島: 2exs., 母島桑の木山産材より羽化, II. 2005, 苧部治紀採集.

妹島: 1ex., 21. VI. 2005, 苧部治紀採集 ;

オガサワラムシヒキ *Tolmerus* sp.

弟島: 1ex., 13. IX. 2005, 鹿ノ浜, 苧部治紀採集; 1ex., 15. VI. 2009, 広根山, 苧部治紀採集.

南島: 3exs., 14. V. 2007, 苧部治紀採集

兄島: 4exs., 台地, 18. VIII. 2010, 苧部治紀・須田真一・尾園暁採集; 3exs., 台地, 30. IX. 2010, 苧部治紀・須田真一・尾園暁採集.

母島: 1ex., 石門, 27. VII. 2011, 苧部治紀・須田真一・尾園暁採集.

向島: 1ex., 広根山, 9. X. 2008, 苧部治紀採集.

近年の父島、母島での記録を欠く。本種も草地に隣接した低木の葉上などで見られることが多いため、アノールの捕食圧の影響を受けている可能性がある。

ハナアブ科

トゲヒメヒラタアブ *Ischiodon scutellaris* (Fabricius, 1805)

南島: 1ex., 14. V. 2007, 苧部治紀採集.

オガサワラモモブトチビハナアブ *Syritta snyderi* Shiraki, 1963

弟島: 4exs., 広根山, 6. X. 2008, 苧部治紀採集; 1ex., 広根山, 15. VI. 2009, 苧部治紀採集.

ツماغロコシボソハナアブ *Allobaccha apicalis* (Loew, 1858)

妹島: 1ex., 22. VI. 2006, 苧部治紀採集.

ハナアブ類全般に、父島では近年まったく見かけることはなくなり、母島でも石門などでわずかに目撃できる程度である。多くの種に訪花習性があることから、アノールの捕食圧の影響を受けている可能性が高い。

謝 辞

発表にあたり調査に協力いただいた須田真一、山田捷夫の両氏、貴重な情報をいただいた初芝伸吾、佐藤陽路樹、森英章、福富宏和の各位に感謝する。

また調査の一部は環境省地球環境研究総合推進費、小笠原地域自然再生事業、および林野庁小笠原諸島固有森林生態系の修復に係るモニタリング事業で得られた成果に基づくものである。

引用文献

- Hasegawa, M., Takeda M. & Karube H., 2011. New species of the genus *Nobuosciades* (Coleoptera, Cerambycidae, Lamiinae) from the Ogasawara islands, Japan, with description of new subgenus. *Elytra, Tokyo, new series*, 1(1): 109-117.
- Ishikawa, H., 2011. Occurrence of a new grasshopper, *Boninoxya anijimensis* gen. et sp. nov. (Orthoptera, Acrididae, Oxyinae) in the Ogasawara islands, Japan. *The Japanese Journal of Systematic Entomology*, 17(1): 115-120.
- 苧部治紀, 1998. オガサワラアオゴミムシの採集例. 甲虫ニュース, (123): 7.
- 苧部治紀, 2012. 小笠原諸島におけるカミキリムシの最近の知見. 月刊むし, (492): 7-13.
- 苧部治紀・高桑正敏・須田真一・松本浩一・岸本年郎・中原直子・長瀬博彦・鈴木互, 2004. 神奈川県立生命の星・地球博物館が行なった 1997-2003 年の調査で得られた小笠原の昆虫目録. 神奈川県立博物館調査研究報告自然科学, 12: 65-86.
- 加藤真, 1991. 小笠原諸島産昆虫目録. 小笠原研究, 17/18: 32-59.
- 岸本年郎, 2009. 小笠原の昆虫の現状と保護: 地表面昆虫の現状とオオヒキガエルによる被害. 昆虫と自然, 44(6): 11-16.
- 植原寛・北島博・後藤秀章・加藤徹・牧野俊一, 2004. グリーンアノールが小笠原諸島の昆虫相、特にカミキリムシ相に与えた影響—昆虫の採集記録と捕食実験からの評価—. 森林総合研究所研究報告, 3(2): 165-183.

- 楨原寛・杉浦真治. 2006. 小笠原諸島父島で採集された特筆すべき3種のカミキリとモニタリングの重要性. 甲虫ニュース, (155): 9-10.
- 大林隆司・稲葉慎・鈴木創・加藤真, 2004. 小笠原諸島産昆虫目録(2002年版). 小笠原研究, 29: 17-74.
- Sugiura, S., Tsuru, T., Yamaura, Y., & Makihara, 2009. Small off-shore islands can serve as important refuges for endemic beetle conservation. *Journal of Insect Conservation*, 13: 377-385.
- 高桑正敏, 1985. 小笠原のハナノミ族について. 月刊むし, (176): 3-11.
- Takakuwa, M., 2010. Additional records of the Ogasawaran endemic *Tomoxia relict* Takakuwa (Coleoptera, Mordellidae). *Elytra, Tokyo*, 38(2): 284.